

## 平成24年度都市システム工学科 教員・学生懇談会 議事録

日時: 平成 25 年 2 月 12 日 10:30～11:30

場所: S2 棟 大学院講義室

参加者:

教員 小峯(教務 WG 長: 司会)、横木(2 年次担任)、井上(M1 担任)、山田(教務 WG: 記録)

学生 学部 2～4 年 6 名, M1 2 名 計 8 名 (名簿は非公開)

小峯教務 WG 長より、開会挨拶、開催の主旨の説明があったあと、進め方等について山田から資料を用いて説明があった。日常の学校生活で不満や疑問に思う事などを自由に発言するよう伝えた。

その後、参加者の自己紹介を行い、小峯 WG 長の司会進行で挙手の上、自由に発言をしてもらった。おもな発言内容は以下のとおり。

- 後期の期末試験で、5コマすべてで試験という日があつて大変だった。もともと4コマ入っていた上に、教員の都合で他の曜日のものが加わった。(2年)
- 冬休み明けの直後に実技試験が行われた科目があった。試験前に練習の時間が取れなかった。以前は夏休み中に実習がスタートして年内に実技試験まで終えていたようだ。今年は天候の影響もあり、年明け直後になったが、練習の時間を取れるようもう少し遅くにしてもよかったのではないか。(2年)
- 実技試験の成績判定基準が事前に知らされておらず、最終の誤差以外に何が評価されたのかわからなかった。(2年)
- Active Mail を他へ転送して携帯電話から読んでいるが、そのような利用者のことを考えた設計になっておらずとても使いづらい。転送済みのメールを Active Mail 上で削除する操作が別に必要であり、さらにその際にモバイル版では一括削除ができないので、とても時間がかかってしまう。(3年)
- 裏門から自転車置き場までの自転車の乗車が、なぜ禁止されなければならないのか疑問(4年)
- 3年生の授業のTAを担当したが、開始前に授業内容を十分に教えてもらっていなかったこともあり、指導する際に、内容まで頭が回らなかった (M1)
- TAでは、あいまいなことは学生には言わないようにしている。先生が学生に何を求めているのかはわかっているので、それに沿って指導している。(M1)
- 授業で習ったことを時間をかけて勉強をしても、よい成績につながらないような問題が試験に出る科目がある。必修科目が多く試験勉強が厳しいなかで評価につながるような試験にしてほしい。また、授業で間違っただけを示されるがどこが間違っているのかが理解できない。後続の授業科目で受けた説明でようやくわかったということがある。(2年)

- 学科内のソフトボール大会で工学部の備品を借りようとしたが、あるはずのものがなく、使えなかった。何のために貸出を管理しているのか疑問。(3年)
- 学割の証明書に不備があり、切符が買えなかったことがある。(2年)
- 奨学金の継続の手続きで、1年のときに水戸で受けた指示に従い、源泉徴収票の代わりとして所得証明書を用意したが、工学部の窓口でダメといわれたことがある。水戸に問い合わせてもらい、それでよいことがわかり受け付けてもらった。(2年)
- IT基盤センターの印刷出力の制限(2年生300枚, 3年生350枚)が厳しすぎる。平均的にはぎりぎりであり使いきってしまう人も少なくない。(2年、3年) 添削して返却するため印刷物での提出を求めている。(教員)
- 自分の就職活動では、JABEE認定による技術士資格(修習技術者)取得見込みを履歴書に書いているが、もっと学生に周知してもよい。(M1)
- 測量士補資格を就職で活かすためには、申請して資格を取得しなければならないことが周知されていないのではないか。就活で意欲のある人は個別に対応しているようだが、授業等で十分に指導があるとよい。(M1)
- エントリーシートの研究履歴に仮配属のことを書いて良いかわからなかった。仮配属のなかで指導があるとよい。(3年)
- 工学祭が次回から学生主体になるが、費用面での工学部の分担を減らさないで欲しい。(3年)
- 受講生が少ない授業でも、今後も開講されつづけていくのか?(4年)
- 新任の先生2名の加入に伴う次年度の研究室の体制は大学院進学予定者にはうすうす伝わって来ているが、今の仮配属生に対しても、次年度の受け入れ数の情報をだしてもらえないか。(4年)